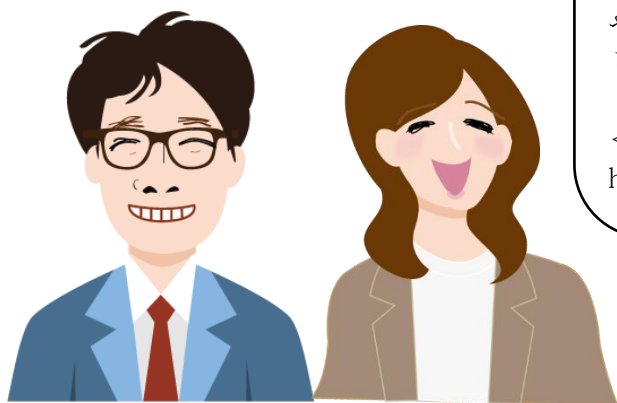


建設業経理士 1 級

過去問ゼミ



財務分析



弥生カレッジCMCでは、月2回（予定）YouTubeライブにて独学者応援（無料質問会）を開催しています。

下記質問フォームに、学習内容についての質問や詳しく教えてほしい論点等、事前にコメントしてください。当日お答えいたします！

<質問フォーム>※有料講座受講期間限定
<https://kaikeisoft.net/form01/liveform/>



弥生カレッジCMC

無断転用・転載を禁じます

建設業経理士試験 1 級（財務分析）レジュメ

<第 5 問で出てくる各数値の覚え方・考え方>

分析の原則→C/F と P/L と B S 並べて右が分母

（例外→未成工事収支比率、立替工事比率、月数は分母が売上÷12、金利負担能力は倍、
配当性向は配当の割合）

P L と B S 比較の時は一部を除いて B S は期中平均による

付加価値＝売上－仕入－外注費－労務外注費（控除法）

流動資産や流動負債から建設業特有の未成工事支出金と未成工事受入金を除く（但し、運
転資本は今後の運転資本なので引かない）

但し、第 19 回はそのような指示がないので引かない方が無難（引いても大丈夫だとは思
う
∵合格率が 40%とここ 10 回で最高だから）

負債や利子に社債分を忘れるな！！

有利子負債にコマーシャルペーパー忘れるな

有形固定資産が分析に関係する時は建設仮勘定は控除する

CP：企業が短期で資金調達
するための、無担保の約束手
形のこと（銀行でも扱う）

純支払利息（支払利息－受取利息）比率の場合は売上高と対比

<第19回>

- ① 事業利益（経常利益＋支払利息）
 資本調達コスト（＝支払利息）を除いた経常的な利益
 資本構造を除外した利益管理（日本のプライマリーバランスみたいなもの？）
- ② 準キャッシュフロー（覚えるのは難）
 営業利益（当期純利益±法人税調整額＋引当金増減＋減価償却費－配当）
 語呂でいくな（当包丁でインゲンを配当する）
- ③ 営業キャッシュフロー（建設業経審の計算式のまま）覚えるのは難
 経常利益＋減価償却実施額－法人税住民税及び事業税±引当金増減額±売掛債権増減額±仕入債務増減額±棚卸資産増減額±受入金増減額）
 語呂大変だが（軽減税率引け、あとはいつものプラスマイナス）
- ④ 建設業の簡易CVP

	区分	イメージ
完成工事高		
完成工事原価	変動費	これはイメージ通り
販売管理費	固定費	これもイメージ通り
営業外収益	収益－費用を変動費に 収益多い場合は変動費から マイナス	収益 1,000 費用 500
営業外費用		変動費から 500 引く 収益 500 費用 1,000 変動費に 500 加算
支払利息	固定費	資金調達は常にある（固定）

- ⑤ 運転資本は実際の値を知りたいので未成は引かない。さらに 2 期平均でもない。今から先の運転状況なので、1 年前の情報はいらぬ
- ⑥ 受取勘定回転期間→売上債権を何か月の売上で回収できるか（将来に向けた予定なので平均なし）
 （日）と書いていれば売上債権を何日の売上で回収できるか
- ⑦ 支払勘定回転率（仕入債務が売上の何倍あるか？）
- ⑧ 経営資本（総資産－建設仮勘定－投資その他の資産－繰延資産－遊休設備）
 ケントク（“特権有する“でも良い）

<第 18 回>

- ① 借入金依存度（全資産の中の借入金）
- ② 純支払利息（支払利息－受取利息）比率の場合は売上高と対比
- ③ 資産回転期間（日）→1日売上高を算出し、その売上げの何倍の資産があるかももちろん資産は期中平均
- ④ 労働装備率と資本集約度は難しい！

生産性の基本公式覚えよう→付加価値／総職員数（平均）

完成工事高で分解（一人当たり売上高 × 付加価値率）

総資本で分解（総資本／総職員 × 付加価値／総資本）
資本集約度 総資本投資効率

集約→1つにマトメル事

1人にマトメル→1人あたり総資本

有形固定で分解（有形固定資産／総職員 × 付加価値／有形固定資産）
労働装備率 設備投資効率

※有形固定資産の建設仮勘定は控除します

投資効率は付加価値をあげるための効率と考えよう
上記算式は元が総職員数だから2期平均→関係式の中ではBS項目同志でも2期平均

レジュメの構成をかえたので、講座の中で P5, P6, P7, と話しているところで、それぞれ P4, P5, P6, と読み替えてください。

<第 17 回>

- ① 未成工事収支比率は分数の例外
未成工事受入金／未成工事支出金

- ② 必要運転資金→手形（受取と支払）と掛（売掛と買掛）と未成工事（支出と受入）の差額<要は、入ってくるお金と出ていくお金の差额的なイメージ>
未成工事支出金→売上入金になる 未成工事受入金→入金の減額

- ③ 必要運転資金月商倍率→月売上高を算出し、その売上げの何倍の資金があるか

- ④ 有利子負債月商倍率→月売上高を算出し、その売上げの何倍の有利子負債があるか
（有利子負債にコマーシャルペーパー忘れるな）

- ⑤ 受取勘定回転期間→売上債権を何か月の売上で回収できるか

期末平均するケースとしないケース
を第 20 回試験までにまとめます。

<第 16 回>

立替工事高比率（これは難しい）→未成だけでなく完成工事も含めた概念

未成工事収支比率（未成工事受入金／未成工事支出金）

これは未成工事だけ

ここに完成工事も加えた発展系と考えるとどうなる

(未成工事支出金－未成工事受入金)　＋　(受取手形・完成工事未収入金)

未成工事支出金　　　　　　　　　　　　＋　　　　　完成工事高

分母は未完成分の原価（売上予定額）と完成分（売上になった分）

分子は、未完成分の立替超過分 と完成工事分の未収入額

第4問対策

CVP分析と労働生産性分析が出題されている
確実に得点をとろう

1. 生産性分析

付加価値＝建設業経理士では控除法（完成工事高－仕入高－外注費－労務外注費）

労働生産性＝付加価値／総職員数（技術も事務も）※総職員は平均値

付加価値分配率＝人件費／付加価値×100

設備投資効率＝付加価値／建設仮勘定を除く有形固定資産

<労働生産性の完成工事高による展開

完成工事高／総職員数 × 付加価値／完成工事高（付加価値率）

<労働生産性の総資本による分解

総資本／総職員数（資本集約度） × 付加価値／総資本（総資本投資効率）

1人あたりに集約するとどれくらい 総資本でどれだけ付加価値出したか
資本あるか

<労働生産性の有形固定資産による分解

建設仮勘定を除く有形固定資産／総職員（労働装備率） 1人当たりの機械

× 付加価値／建設仮勘定を除いた有形固定資産（設備投資効率）
設備投資でどれだけ付加価値出したか

労働生産性と労働装備率は、どちらもBS項目なのに分母も分子もなぜ平均するのか？

<考え方のヒント>

展開する為の係数の総資本や有形固定資産を分母・分子において1にする必要があるので両方平均になる

【7.第5問対策】動画：第5問の18回対策16分20秒くらいから約10分間詳しく解説しております。そちらも参照してください。

17:00 秒で「7 ページ目に CVP 分析と労働生産性」と話していますが【6 ページ目】です。訂正してお詫びします

<第 19 回>

$$\text{付加価値} = 27,500,000 - 3,146,000 - 1,573,000 - 15,488,000 = 7,293,000$$

$$\text{問 2 : 労働生産性} = 7,293,000 / 250 = 29,172$$

$$\text{問 3 : 資本集約度} = \text{総資本} / 250 = 125,000 \quad \therefore \text{総資本} = 125,000 \times 250 = 31,250,000$$

$$\rightarrow \text{総資本回転率} \quad 27,500,000 / 31,250,000 = 0.88 \text{ 回}$$

$$\text{問 4 : 営業利益増減率} \quad 2,316,000 \rightarrow 2,145,000 \quad \Delta 171,000 / 2,316,000 \times 100 = \Delta 7.38\%$$

<第 16 回>

$$\text{問 1 : 付加価値} = 18,000,000 - 3,375,000 - 1,620,000 - 6,750,000 = 6,255,000$$

$$\text{付加価値率} = 6,255,000 / 18,000,000 = 34.75\%$$

$$\text{問 2 : 労働装備率} = (2,800,000 - 210,000) / 150 \text{ 人} = 17,266.666$$

$$\text{問 3 : 設備投資効率} = 6,255,000 \div (2,800,000 - 210,000) = 241.505 \dots \%$$

$$\text{問 4 : 変動費} = 13,500,000 - 220,000 = 13,280,000$$

$$\text{固定費} = 3,972,000 + 193,400 = 4,165,400$$

$$\text{貢献利益} = (18,000,000 - 13,280,000) = 4,720,000$$

$$\text{BEP 売上高} = 4,165,000 / (4,720,000 / 18,000,000) = 15,885,000.0001 \dots$$

$$\text{BEP 比率} = 15,885,000.0001 / 18,000,000 = 88.25$$

2. CVP分析

損益分岐点売上高 \rightarrow 完成工事高 $-$ 変動費 $-$ 固定費 $=0$

完成工事高 \times 変動費率 $=$ 変動費

完成工事高 \times 限界利益率 $=$ 限界利益

$1 -$ 変動費率 $=$ 限界利益

この関係をしっかり押さえておく

<第18回>

完成工事高の求め方

損益分岐点売上高 (32,800) $-$ 変動費 $-$ 14,760 $= 0$ \therefore 変動費 18,040

変動費率 $18,040 / 32,800 = 0.55$

27期完成工事高 $= 27$ 期変動費 $20,240 \div 0.55 = 36,800$

限界利益 \rightarrow 限界利益率 0.45 $\therefore 36,800 \times 0.45 = 16,560$

問3

$$X - 0.55X - 17,460 = 0.075X$$

問4

$$\text{付加価値} = 36,800 - 1,965 - 1,297 - 10,170 = 23,368$$

$$\text{付加価値率} = 23,368 / 36,800 \times 100 = 63.5\%$$

<第17回>

損益分岐点	安全余裕額
完成工事高	

$$\text{問1} : 36,000,000 \times 0.8 = 28,800,000$$

$$\text{問2} : 7,200,000 / 36,000,000 \times 100 = 20\%$$

問3 : 第4期売上 36,000,000 28,800,000

$-$ 変動費 $-$ 固定費 12,960,000 $= 0$

\therefore 変動費 $= 15,840,000 \rightarrow$ 変動費率 $= 0.55$

第4期完成工事高 $36,000,000 \times 0.55 = 19,800,000$

(注 : $28,800,000 \times 0.55 = 15,840,000$ としない事)

問4 : 上記より変動費率 55%

$$X - 0.55X - 12,960,000 = 0.18X$$

$$\therefore X = 48,000,000$$

第3問対策

とにかくわかるものから埋めていく。難易度高いの一つはある。後回しが無難。

<第19回>

総資本経常利益率=8% ∴総資本(総資産)=1,233,000

自己資本経常利益率=21.92% ∴自己資本=450,000 負債計=783,000

流動負債計=587,000

自己資本回転率=2.80回 ∴完成工事高=1,260,000 月商105,000

完成工事高総利益率12.5% ∴完成工事原価=1,102,500

受取勘定滞留月数=5.6月 ∴受取勘定=588,000 完成工事未収入金=420,000

棚卸資産滞留月数=0.69月 ∴棚卸資産72,450 未成工事支出金=71,200

→流動資産計=839,200

流動比率150%=(839,200-71,200) / (587,000-未成工事受入金)

→未成工事受入金=75,000

必要運転資金月商倍率=1.99倍 ∴必要運転資金=105,000×1.99=208,950

(168,000+420,000+71,200) - (94,250+工事未払金+75,000) =208,950

→工事未払金=281,000 (これは難しいかもしれない)

金利負担能力=(営業利益+受取利息配当金) / 支払利息 (分母が右のイメージ)

(営業利益+6,430) / 6,400=17.5 ∴営業利益=105,570

経営資本営業利益率=11.5% ∴経営資本=918,000

経営資本918,000=1,233,000(総資産) - 1,500 - 投資有価証券

∴投資有価証券=313,500

<第5問対策より>

必要運転資金→手形(受取と支払)と掛(売掛と買掛)と未成工事(支出と受入)の差額

<要は、入ってくるお金と出ていくお金の差額的なイメージ>

未成工事支出金→売上入金になる 未成工事受入金→入金の減額

<第 18 回>

私が解いた順序を記します

- ① 完成工事高→月商
- ② 自己資本回転率→自己資本→**利益剰余金**
- ③ 負債比率→負債→資産計→経常利益
- ④ 流動負債比率→流動負債（建設業）→短期借入金
- ⑤ 金利負担能力→営業利益→経営資本→**投資有価証券**
- ⑥ 同じく営業力と経常利益の差からD算出

Aは後回しが無難

算出方法→立替工事比率

<16回第 5 問解説より>

立替工事高比率→未成だけでなく完成工事も含めた概念

未成工事収支比率（未成工事受入金／未成工事支出金）

これは未成工事だけ

ここに完成工事も加えた発展系と考えるとどうなる

$$\frac{(\text{未成工事支出金} - \text{未成工事受入金})}{\text{未成工事支出金}} + \frac{(\text{受取手形} \cdot \text{完成工事未収入金})}{\text{完成工事高}}$$

分母は未完成分の原価（売上予定額）と完成分（売上になった分）

分子は、未完成分の立替超過分 と完成工事分の未収入額

ここに代入しましょう

$$\frac{(A - 81,800) + (8,300 + 324,200)}{A + 1,128,000} = 29.25\%$$

$$A = 112,000$$

<第 17 回>

私が解いた順序を記します

- ① 完成工事高→月商
- ② 自己資本回転率→純資産→**経常利益**
- ③ 負債比率→負債合計→長期借入金
→資産計
- ④ 金利負担能力→営業利益→経営資本→**投資有価証券**
- ⑤ 現預金手持月数→現預金
- ⑥ 受取勘定滞留月数→**完成工事未収入金**（ここで材料貯蔵品も出しておく・使用は未定）
- ⑦ 借入金依存度→**短期借入金**

最後にD（これは、いけそう）

当座比率 195%

$$\frac{112,500+900+27,000}{200+\text{工事未払金}+15,000+14,000} = 195\%$$

工事未払金=42,800

未成工事受入金（逆算）=44,000

<第 16 回>すぐに算出できるものを実施→もう一度上から計算

- ① 総資本回転率→総資本 750,000
- ② 経営資本回転率→経営資本 576,000
- ③ 総資本 750,000－経営資本 576,000=174,000→**建設仮勘定=29,000**
- ④ 経営資本営業利益率→営業利益=27,360→**支払利息=7,200**（差額）
- ⑤ 棚卸資産滞留月数→棚卸資産=64,740→未成工事支出金=64,540
→**未成工事収支比率=66,000/64,540×100=102.26%**
- ⑥ 受取勘定滞留月数→受取勘定=255,000→完成工事未収入金=244,000
- ⑦ 自己資本比率→純資産=279,000→負債計=471,000→長期借入金=90,000
- ⑧ 借入金依存度→借入金=159,000→**短期借入金=69,000**→工事未払金=232,000

現金預金（A）は当座比率から

$$(A+11,000+244,000) / (381,000-66,000) = 108.40\%$$

∴ **A=86,460**

<第 15 回>

- ① 棚卸資産回転率→完成工事高=576,000 (月商=48,000)
- ② 支払勘定回転率→工事未払金=137,000
- ③ 現預金手持月数→現金預金=36,000
- ④ 経営資本回転期間→経営資本=312,000
- ⑤ 有利子負債月商倍率→長期借入金=64,000
- ⑥ 経営資本営業利益率→営業利益=16,380
→完成工事原価=532,800
- ⑦ 金利負担能力→受取利息=3,060
- ⑧ 流動比率→流動資産=247,200→完成工事未収入金=180,000
- ⑨ 固定長期適合比率=152,800 / (64,000+純資産) =99.5% ∴純資産=96,000

立替工事比率はスルーでしょう

一応、書いておきます

<16回第 5 問解説より>

立替工事高比率→未成だけでなく完成工事も含めた概念

未成工事収支比率 (未成工事受入金 / 未成工事支出金)
これは未成工事だけ

ここに完成工事も加えた発展系と考えるとどうなる

$$\frac{(\text{未成工事支出金} - \text{未成工事受入金})}{\text{未成工事支出金}} + \frac{(\text{受取手形} \cdot \text{完成工事未収入金})}{\text{完成工事高}}$$

分母は未完成分の原価 (売上予定額) と完成分 (売上になった分)

分子は、未完成分の立替超過分 と完成工事分の未収入額

まず未成工事受入金を算出する必要があります

総資産=流動資産+固定資産=400,000 (上記⑧参照)

流動負債=400,000-96,000-64,000=240,000

未成工事受入金=40,000

立替工事比率→公式にあてはめる→ $(\Delta 17,500 + 186,200) / 598,500 = 28.19\%$

<第 14 回>今回は短時間での満点が欲しい

- ① 完成工事高総利益率→完成工事高 720,000 (月商 60,000)
- ② 当座比率→未成受入以外の流動負債 75,000→流動負債計 109,000、負債計 159,000
- ③ 自己資本比率→借方・貸方計 300,000 (②からでも算出可能)
- ④ 金利負担能力→営業利益 10,545
- ⑤ 支払勘定回転期間→支払勘定 59,400→工事未払金 55,000
- ⑥ 総資本経常利益率→経常利益 8,400
- ⑦ 経営資本営業利益率→経営資本 277,500→有価+建仮=22,500→投資有価証券 16,000
- ⑧ 総資産 300,000－固定資産計 (⑦より 131,350) =流動資産 168,650

<第 13 回>未成工事受入金以外は取りやすい

- ① 経営資本営業利益率→経営資本 43,750
- ② 固定比率→固定資産計 14,450→資産計 50,400→負債合計 33,400
資産計－経営資本計=6,650→**建設仮勘定 450**
- ③ 借入金依存度→長期借入金 2,000→流動負債 31,400
- ④ 金利負担能力→受取利息 105
- ⑤ 総資本経常利益率→経常利益 1,386
- ⑥ 完成工事高経常利益率→完成工事高 63,000 (月商 5,250)
- ⑦ 完成工事原価率→完成工事利益 8,505→**販管費 6,930**
- ⑧ 受取勘定滞留月数→受取勘定 12,600→**完成工事未収入金 6,700**
- ⑨ 流動比率→ $(35,950-21,395) / 31,400$ (③) -C) →未成工事受入金=**17,200**

棚卸資産滞留月数= $21,630 / 5,250 = 4.12$ 月

12回から10回はP19以降に掲載しています

第 2 問対策

未成工事支出金・未成工事受入金は工事完成基準では多額になる
(完成するまで仕掛品・前受金として残るから)

未成工事収支比率 = 未成工事受入金 / 未成工事支出金 × 100

安全性分析

流動性分析 (短期的支払能力)

関係比率分析

流動比率 (200%以上) ・ ・ 銀行家比率

当座比率 (棚卸資産を抜く)

未成工事収支比率 ・ 立替工事比率

資金保有月数分析

資産滞留月数分析

健全性分析 (調達構造 = 資本構造と運用)

自己資本比率

負債比率

借入金依存度

金利負担能力

固定比率と固定長期適合率

配当性向

<第 19 回>

1 と 2 は選択肢との関係で支払い能力と流動性

3 は上記の知識で解答

4,5,6 は保留

7 の流動比率は簡単、8 も一般論で 200%、9・10 は < 3, 4, 5 問 > の学習で対応可能
ここで選択肢から 4,5,6 を探る

4 は保留、5 は正味運転資本としましたが資金でした。6 は資産でしょう。6 の解答を考えれば当然資金ですね。

4 は最後まで迷いましたが、趨勢比率・関係比率・構成比率のどれかを問うていると判断
関係比率に落ち着きました (でも難しい)

<第 18 回>

収益性：利益率、CVP

完成工事高総利益率、安全余裕率、完成工事高CF率

活動性：回転率

自己資本回転率、支払勘定回転率

生産性：付加価値分析

設備投資効率、付加価値率

流動性：短期支払能力

当座比率、未成工事収支比率、必要運転資金月商倍率、運転資本保有月数

健全性：調達構造＝資本構造と運用のバランス

金利負担能力、固定比率、配当性向

成長性：伸び率・対前年比

経常利益増減率

未成工事収支比率は健全性と迷った

安全余裕率を健全性にしないように（CVP関係です）

必要運転資金月商倍率も迷う

配当性向も勢いで収益性にいきそうか

<第 17 回>

長期工事→流動資産（未成工事支出金が多額）が構成比高い→固定資産の構成比が低い

→固定資産効率は結果的によくなる

1 から 6 と 9 は比較的簡単に求められる

7,8 が難しい

でも、固定資産の構成比が低いという事は労働装備率が低いので 7 は労働装備率

8 は安全性か生産性の 2 択なので、文句なしに生産性

※工事完成基準では完成するまで未成工事支出金と未成工事受入金が多額になる

<第 16 回>

回転率（資産の再投資回数）< 寿司屋の座席と客数で考えるとわかりやすい>

回転期間（売掛金を回収するのに何か月かかるか）

売掛金 1,000 売上 2,400 ÷ 12 = 200 → 5 か月かかる

7 以降は難しい

7 は選択肢から受取勘定回転率と判明 → ∴ 8 は「低い」

9 は前受から未成工事受入金

10 は施工工事に対する未収と考えれば未収施行高回転率とイメージ可能

11~12 はイメージしにくい

固定資産の回転期間 → 回転期間の分母は月商か日商 → 基になるのは完成工事高

12 の減価償却費は私もまったくわかりませんでした

<第 15 回>

生産性とは → 産出高（活動成果・OUTPUT） / 投入高（INPUT）

労働生産性(円) = 付加価値 / 従業員数

資本生産性 (%) = 付加価値 / 資本

→ 5~9 はこの考え方から導き出す

1 は総資本回転率か生産性か迷うところ

3 段落目の分母が従業員か投資という事で生産性になろう

よって 3 は付加価値

2 は難しい（保留）

付加価値 = 売上高 - 材料仕入 - 外注費（労務外注 + 一般外注）

∴ 4 は「変わらない」

10 は人件費 / 付加価値 → 分配

解答欄埋めた後、用語群の残りから 2 は「活動成果の配分」と読める

<第 14 回>

CVP 1~6 は簡単

7~10 は難しい

7 は（総）収益と（貸借対照表）から総資本が有力候補

すると 8 は必然的に資本回収点分析

総資本の分解候補は？自己資本と他人資本 or 変動的資本と固定的資本

今は固定と変動の話なので、後者

どっちが資本回収点分析の分子 → やはり回収は固定だろう

<第 13 回>

1 は迷う？支払い能力？流動性？保留しよう

19 回していれば 2 は簡単です。流動比率。

読み進めると 3 行目で 5 が支払い能力かな？もう少し保留？

8 は売上債権か棚卸資産か迷う。ただ 9 は当座比率が有力なので、8 は棚卸資産

1 と 5 は私は結局迷ったままでした。1 を流動性、5 支払能力としました（ラッキーでした）

<第 12 回>

資本構造の分析は自己資本比率と負債比率

総資本→経常利益

自己資本（＝株主資本）→当期純利益

4 は自己資本を 1 負債を 999 くらいからスタートして考えるとわかる

6 は難しい（経常利益と事業利益で迷う）∴7 も迷う

私は正直 6：当期純利益 7：経常利益とした

※確認しました

総資本事業利益率：資本の調達の影響排除したい（支払利息を除外）

比較可能性の見地から優れているらしい

総資本経常利益率：本来の営業活動・財務活動の収益性を示す

4 は最後で支払利息と判明（最初は負債かと思った）

<第 11 回>

5 行目の減価償却費から 1 は有形固定資産か固定資産

2 は完成工事高だろう→3 は高くなる→4 は低くなる

5 以降はピンとこない

9 は付加価値

$$\frac{\text{付加価値} / \text{従業員}}{\text{設備投資効率}} = \frac{\text{付加価値} / \text{有形固定資産}}{8} \times \frac{\text{有形固定資産} / \text{従業員}}{\text{労働装備率}} \quad 10$$

2 段落 4 行目の表現と 8 の内容で 1 を固定資産に確定

分母の資本を 6 (有形固定資産) として測定した 5 を特に設備投資効率といい

11 は簡単→建設仮勘定

最後に残ったのが 5 と 7

選択肢から考えると 5 は資本生産性か?

7 は難しい→日本語的に考えた

() に**対応する**資本生産性では、従業員に**対応する**投下資本は設備投資
対応関係を考えると、従業員とバランスの取れているのは労働生産性

何とか全問正解だったが、自信はなかった

<第 10 回>

1、3、5、6 は簡単です (固定比率と固定長期適合率がわかっているならば OK)

2 は文脈的に内部留保か

4 はたぶん固定資産だが有形固定資産の可能性も探る

9 は「低い」です (お礼ボードで示します) 私は勢いで高いにしてみました (反省)

10 も文脈的には流動資産の可能性が高い

11 は「利益分配」 (私は「剰余金の配当」にしてみました)

すると 12 は当期純利益で 13 は配当性向

残った 7 は有形固定資産でしょう

第3問追加解説

< 1 2 回 > 社債があるので短期借入金の算出には注意。他は何とかいけそう

- ① 総資本当期純利益率→総資産 84,000→固定資産計 13,440
- ② 借入金依存度→借入金合計 21,840
- ③ 固定比率→純資産 20,000→負債合計 64,000
- ④ 固定長期適合比率→社債 2,500→固定負債計 12,000→流動負債 52,000
②とあわせて**短期借入金 9,840**
- ⑤ 総資本回転率→完成工事高 105,000 (月商 8,750)
- ⑥ 受取勘定回転率→受取勘定計 35,000→**受取手形 11,220**
- ⑦ 棚卸資産滞留月数→棚卸資産計 27,125→**未成工事支出金 26,800**
- ⑧ 流動負債比率→未成受入以外の流動負債 39,000→**未成工事受入金 13,000**

準支払利息比率→ $(X - 20) / 105,000 = 0.6\%$ X
= 650

∴ 経常利益 = 1,953

∴ 完成工事高経常利益率 = 1.86%

< 1 1 回 > 比較的簡単 できれば満点

- ① 完成工事高営業利益率→営業利益 2,340
- ② 現金預金手持月数→現金 15,600
- ③ 資本集約度 (従業員一人当たりの総資産) →資産計 etc120,000
- ④ 金利負担能力→**支払利息 1,100**
- ⑤ 棚卸資産回転率→棚卸資産計 12,500→未成工事支出金 12,374
- ⑥ 総資本経常利益率→経常利益 **1,536**
- ⑦ 流動比率→未成工事受入金以外の流動負債 76,500
- ⑧ 自己資本比率→純資産 24,000→負債合計 96,000
- ⑨ 固定負債比率→**固定負債計 12,000**→流動負債 84,000→**未成工事受入金 7,500**

純支払利息比率 = $(1,100 - 520) / 156,000 = 0.37\%$

<第 10 回> 未成工事受入金以外は比較的簡単

- ① 完成工事高営業利益率→営業利益 20,700
- ② 受取勘定滞留月数→受取勘定 67,500→完成工事未収入金 38,000→流動資産計 166,000
- ③ 金利負担能力→**受取利息 300**
- ④ 自己資本回転率→純資産 100,000
- ⑤ 労働装備率→有形固定資産（稼働分）66,000→**建物 35,000**
- ⑥ 負債比率→負債計 150,000→**長期借入金 25,000**

固定資産回転率→資産計④⑥より 250,000→③より固定資産計 84,000
∴ $225,000 / 84,000 = 2.68$ 回

未成工事受入金はスルーでもOK

算出するためには、立替工事比率から算定が必要

$$\frac{85,500 - B + 29,500 + 38,000}{85,500 + 225,000} = 28\% \quad 1$$

$$B = 66,060 \text{ 円}$$

建設業経理士 1 級（財務分析）第 1 問対策

論述問題は解答要求を大きく外さなければ字数に関わりなく 50%は確保できます。
中小企業診断士、ビジネス会計検定 1 級、大学院記述試験、建設業経理士 1 級 3 科目合格の経験からほぼ間違いないと思われます。実際の試験で専門誌から出ている模範解答を書く事はほぼ不可能だと思います。本試験当日の立ち回り方という事であえて作文的な内容で説明させていただきます。

第 10 回

実数分析の意味→実績値から分析する事を書く
増減分析→基準期間を決める方法、対前年での対比
増減率と対前年比の違い

このあたりを書けば良い

第 11 回

<問1> 限界利益
計算式を書こう

固定費をカバーする事は必ず書く

貢献利益の事も書いても良い

<問2>受注産業をふまえて、建設業の損益分岐点分析の説明
受注産業の特徴は書かないといけない
→私なら断れるという事を書く

一般的な損益分岐点の説明をするしかない
コストを固定費と変動費に分ける
完成工事原価を変動費にする
経常利益までの分析
これくらいで充分か

第 12 回

<問1> 定額請負契約の利益率に与える影響
計算をイメージ
長期にわたるとい性格から原価変動リスク大きい
一般的に請負額増額交渉は難しい

<問2> 資金立替状況の分析
意義→意味
未成工事収支比率→未完成工事
立替工事比率→上記に加えて完成済の工事の未収入金を加算する。

第 13 回

<問1> 付加価値の意義
意義=意味
自社が新たに加えた価値

加算法と控除法
控除法のみ説明で良い→完成工事高－材料費－外注費（労務外注含む）

<問2> 付加価値分子の生産性
付加価値／従業員数
労働生産性
付加価値／投下資本資本
資本生産性

労働生産性を完成工事高で分解した指標は書いても良いでしょう

第 14 回

<問1> 健全性分析の意義

資本の調達と運用のバランス

自己資本比率・負債比率・固定比率・固定長期適合率等を書こう

固定比率などは問2とWが問題ないでしょう B

S中心だが、配当性向なども対象となる

<問2> 長期的指標の比率と説明

固定比率→自己資本との対応 100%以下望ましい

固定長期適合比率→自己資本+長期借入金との対応 絶対 100%以下

第 15 回

<問1> CF分析

意義→必要性

PLでは利益はわかる B

Sで最終的な財産状態わかる

キャッシュの分類別の流れを管理する事で企業の状態を把握したい

具体的には営業活動で投資行い借金返済

<問2> CF計算書の実数分析 (模範解答のようには書けませんでした)

複数年で対比する事で、企業の成長過程との対比可能

創業期

成長期

退潮期

第 16 回

総合評価（私が企業価値について書いて、それでも合格しました）

レーダーチャートくらいは書けた方が良いでしょうね（反省です）
スポーツ選手の評価に使うのでご存じの方も多いでしょうね

企業価値は書きやすい
純資産法・収益還元価値法

他はテキスト等で確認しておいて下さい

第 17 回

<問 1> 自己資本利益率

経常利益・当期純利益

自己資本は株主資本が中心なので、処分可能利益である当期純利益で計算するのが望ましい

<問 2> 自己資本利益率

あげる方法

3つに分解する

$$\text{利益} / \text{自己資本} = \text{利益} / \text{売上高} \times \text{売上高} / \text{自己資本}$$
$$\text{売上高} / \text{総資本} \times \text{総資本} / \text{自己資本}$$

利益率を高める、回転率を高める

負債比率を高める→支払利息に注意

第 18 回

<問 1> 外部分析の主体 3 つと分析目的
投資家→株を買うかどうかの意思決定のため
債権者→融資を行うかどうかの意思決定のため

株主は投資家とかぶったので思いつかなかった

一般従業員は入れてもいいかもしれない

<問 2> 内部分析の主体 2 つ
経営者（トップマネジメント）→長期的意思決定

管理職（ミドルマネジメント）→短期的意思決定

19 回

<問 1> 建設業における固定費・変動費 分解方法
まず一般論でいこう。操業度との関連で固定費と変動費の説明

建設業では、完成工事原価を変動費、販売管理費を固定費
一般的な高低点法書いても良い

<問 2> 建設業における損益分岐点とは どのように活用されているか
一般論でOKでしょう

損益トントンイメージの作文

活用→安全余裕率の算定

損益分岐点が高いときは安全余裕率が低い

固定費削減や変動費率削減を実施する

建設業経理士（財務分析）第 24 回

<3 問の解き方（私の実施した方法）>
関連データを上から順番に確認する

①金利負担能力

(受取利息 880+営業利益) / 支払利息 900
→営業利益 7,400
→完成工事総利益 36,000

②負債比率

90,000 / 純資産 = 150%
→純資産 60,000
→総資本 150,000
→流動資産 78,750
→経常利益 7,470
→D 営業外収益（その他） 740

③総資本回転率

完成工事高 / 150,000 = 0.96
→完成工事高 144,000 → C 完成工事原価 108,000
→月商 12,000

④現金預金手持ち月数

現金預金 / 月商 12,000 = 1.48
→A 現金預金 17,760

<ここで、次の問題にいつでもOK>

⑤固定長期適合比率

71,250 / (固定負債 + 60,000) = 75%
→固定負債 35,000
→流動負債 55,000

⑥流動比率

(78,750 - 25,100) / (55,000 - B 未成工事受入金) = 145%
B 未成工事受入金 → 18,000

立替工事比率は公式覚えていれば実施、そうでなければ次の問題にいこう！

<立替工事比率>テキスト抜粋

<16回第5問解説より>

立替工事高比率→未成だけでなく完成工事も含めた概念

未成工事収支比率（未成工事受入金／未成工事支出金）

これは未成工事だけ

ここに完成工事も加えた発展系と考えるとどうなる

$$\frac{(\text{未成工事支出金} - \text{未成工事受入金})}{\text{未成工事支出金}} + \frac{(\text{受取手形} \cdot \text{完成工事未収入金})}{\text{完成工事高}}$$

分母は未完成分の原価（売上予定額）と完成分（売上になった分）

分子は、未完成分の立替超過分 と完成工事分の未収入額

<第4問の解き方>

安全余裕率に関して建設業会計概説書では2種類の公式がある

(a) 予算 or 実際売上高 / 損益分岐点売上高

(b) (予算 or 実際売上高 - 損益分岐点売上高) / 予算 or 実際売上高

試験対策としては、必ず覚えておく必要がある

今回は(a)パターンでした

問1

$$108.5\% = 28,644,000 / \text{BEP 売上高}$$

$$\rightarrow \text{BEP 売上高} = 26,400,000 \text{ 円}$$

問2

$$X - (\text{変動的資本} / \text{完成工事高}) X - \text{固定資本} = 0$$

$$\text{総資本} \rightarrow 28,644,000 \div 1.2 = 23,870,000 \rightarrow \text{変動的資本 } 17,902,500 \rightarrow \text{固定的資本 } 5,967,500$$

$$X - (17,902,500 / 28,644,000) X - 5,967,500 = 0$$

$$0.375 X = 5,967,500$$

$$X = 15,913,333.3333$$

問3

$$\text{損益分岐点売上高} - \text{変動費} - \text{固定費} = 0$$

$$26,400,000 - 9,240,000 - X = 0 \quad X =$$

$$17,160,000$$

$$\therefore \text{変動費率} = 0.65$$

$$\therefore 28,644,000 \times 0.65 = 18,618,600 \rightarrow 18,618 \text{ 千円 (千円未満切捨)}$$

問4

$$X - 0.65 X - 9,240,000 = 1,050,000 \quad X =$$

$$29,400,000$$

$$\text{問5 } X - 0.65 X - 9,700,000 =$$

$$0.1 X \quad 38,800,000 \text{ 円}$$

建設業経理士 1 級（財務分析） 26 回対策 「過去問ゼミ」

<学習の進め方>

過去問題集：TAC出版の「合格するための過去問題集」第4版（16~25回掲載）

をお奨めします

（ネットスクール社の出題パターンと解き方でも大丈夫ですが、掲載数が違うケースがあります）

DVD①~?を視聴する

各問の最初に学習方法や解き方の説明をしています。

そのうえで解き方を説明していますので、しっかり確認して下さい。

解説を視聴し、解き方のイメージが固まったら、同じ問題で良いので解き直しをしてください。

自身の得意論点および不得意論点を確認して下さい。

得意論点を伸ばす学習方法、不得意論点を克服する学習方法の2種類がありますが、まずは得意論点を伸ばす工夫をしてみてください。

第5問 19回~16回

第4問 19回~16回

第3問 19回~13回（15回以前は問題集に掲載されていません）

第2問 19回~12回（15回以前は問題集に掲載されていません）

※問題集に掲載されていないものは、建設業経理士のサイトに過去問が掲載されていますから、そちらで確認して下さい。但し、解答を弊社で用意しているわけではありませんので聴き学問という形で学習して下さい。十分に効果はあります。

次に24回対策問題を確認する（1問~5問を解説しています。最新に近い回の問題のイメージをつかんでください）

最後に20~25回で出題された新論点の確認を実施して下さい。

不明点があれば掲示板で、「ネット質問会で解説して欲しい」と入れてください。内容により対応できないケースもありますが、できるだけ対応させていただきます。

弥生カレッジCMC 横山

建設業経理士25回（財務分析）過去問ゼミ

令和2年9月7日

①過去問ゼミの学習方法

既に24回までの過去問ゼミ確認済んでいる方
→25回のみ確認

今回新たに過去問を実施する方

→10回～19回までの過去問ゼミ（網羅型）確認
24回以降は、個別型です

②過去問題集について

TAC（1,800円）、ネットスクール（2,000円：簡易テキスト付）のいずれかを用意した方がよいと思います。

建設業経理士のサイトでも無料で問題はダウンロードできますので、解き方のみ当社の講座で確認するのであれば（当社の講座は解答は講座内で説明しており、解答として作成はしていません）特に必要はありません。TACの最新号では16～25回の問題集なので、15回以前は建設業経理士のサイトからダウンロードして下さい。

③予想論点

過去問の傾向と予想を用意しております。参考にしてください。

④記述問題

模範解答は、簿記上級者・公認会計士合格者などが複数人で3時間以上かけて作成しています。本試験では、「主語+述語+さらに（例えば・具体的には）」作戦でいきましょう。

<感想>

私は、年に2回過去問ゼミ作成時のみしかしないので満点はとれません。今回は

1問	2問	3問	4問	5問	合計
10/20	15/15	16/20	15/15	28/30	84/100

立替比率は試験前にゴロ合わせなどで覚える必要があります。

第1問は今回はかなり厳しい感じでした。その分他の設問は取りやすい内容だったので、1問に惑わされずに、冷静に対処する必要がありました。しっかり得点が必要な回でした。

<第1問>

建設業における企業経営の総合指標には「経営事項審査」がある。これに関する以下の問に答えなさい。

<問1>審査項目の経営規模（X2）の具体的な審査内容に挙げられている利益について説明しなさい

審査項目の経営規模（X2）の具体的な審査内容に挙げられている利益は、当期の利益である。営業利益・事業利益・経常利益・税引き前利益・当期純利益等があるが、経営規模にふさわしい利益が審査される。

「結構わかってるんだけど」アピール作戦

<問2>審査項目の経営状況（Y）の具体的な指標を3つあげて、それぞれ説明しなさい
審査項目の経営状況（Y）の具体的な指標は

- ①資本利益率→資本（投資）に対する利益をあらわす指標。数値が高いほど収益性が高いことを示す。
- ②自己資本比率→総資本に占める、返済不要な自己資本の比率をあらわし、数値が大きいほど財務健全性が高いことを示す。
- ③安全性の指標を選んで書くのがベター（私なら流動比率あたりでしょうか）

これくらい書ければ**10点は確保**できるでしょう

記述式試験において空白が多いよりも、ある程度書けると安心感が生じ、残りの問題に前向きになれます。

建設業経理士試験は発表まで時間があります。各社の解答速報などを見ると、「少しでも書いておけば良かった」となります。ぜひあきらめずに加点目指して頑張ってください

<第2問>

15点(満点)確保

日商簿記2級のCVP分析の知識で解答可能です。

絶対に満点を取りたいところです。

<第3問>

できれば16点 悪くても12点

第三問は慣れです。過去問を回転すれば確実に16/20くらいは取れるようになります。

一応私が解いた手順を記します

①固定比率から→ $70,000 \times 96.5 = 67,550$ (固定資産合計)

$67,550 + \text{流動資産計 } 132,450 = 200,000$ (資産計、負債資本計)

$200,000 - 70,000 = 130,000$ (負債合計)

②経営資本営業利益率→ $11,142 \div \text{経営資本} = 6\%$ ∴経営資本=185,700

建設仮勘定→ $200,000 - (\text{建仮} + \text{投資 } 13,500) = 185,700$

建設仮勘定=800

③総資本回転率→ $\text{完成工事高} \div 200,000 = 1.2$ ∴完成工事高 240,000

④借入金依存度→ $(17,000 + 11,000 + \text{社債}) \div 200,000 = 26\%$ ∴社債=24,000

固定負債計 35,000 円 ∴流動負債= $130,000 - 35,000 = 95,000$

⑤流動比率 $(132,450 - 54,640 = 77,810) / \text{流動負債 (未成控除)} = 155\%$

∴流動負債 (未成控除) = 50,200

未成工事受入金=流動負債計 95,000 - 50,200 = 44,800

⑥受取勘定滞留月数→ $(22,000 + \text{売掛金}) \div (240,000 \div 12 = 20,000) = 2.3$ 月

∴ **完成工事未収入金=24,000**

⑦純支払利息比率= $(\text{支払利息} - \text{受取利息配当金}) \div 240,000 = 1\%$

∴ $(\text{支払利息} - \text{受取利息配当金}) = 2,400$

営業利益 11,142 + (受取利息 + D) - (支払利息 + 1,801) = 7,200

∴完成工事高経常利益率=3% $11,142 +$

$(\text{受取利息} - \text{支払利息}) + (D - 1,801) = 7,200$ 支払利息

- 受取利息 = 2,400 = $11,142 + D - 1,801 - 7,200$

∴ **D = 259**

支払勘定回転率 = $240,000 \div (\text{工事未払金 } 18,600 + \text{支払手形 } 11,000) = 8.108 \rightarrow 8.11$

※支払手形 = $95,000 - (18,600 + 17,000 + 3,600 + 44,800) = 11,000$

<第4問>

ここは確実に。できれば満点15点 悪くても11点

解説は不要ですね。頻出論点なので、再確認しておいてください。

<第5問>

ここも、ほぼ毎回同じ関係ですね。

第2問と第3問と第4問をしっかりと復習すれば第5問を解けるはずです。

期中平均を忘れないようにしてください。

特に注意は、

①流動資産・当座資産から貸倒引当金は控除する（指示あれば指示通り）

②未成工事収支比率・立替工事比率は試験直前の暗記が有効（イメージは持つべき）

未成工事収支比率

→未成工事の勘定を使用する→未成工事受入金／未成工事支出金×100

立替工事比率

→未成工事収支比率（現在進行中の工事の立替状況）＋完成分の立替状況

★分子

完成済で未入金（受取手形＋完成工事未収入金）

現在進行中の立替状況（未成工事支出金－未成工事受入金）

★分母

完成工事高（完分）

未成工事支出金（未成分原価）

③分母・分子ともに期中平均値を使うもの（直前に覚える）

資本集約度＝総資本／総職員数

総資本で分解

労働生産性（付加価値／総職員数）＝資本集約度×総資本投資効率（付加価値／総資本）

労働装備率＝有形固定資産（除建仮）／総職員数

有形固定資産で分解

労働生産性＝労働装備率×設備投資効率（付加価値／有形固定資産）

※ともに分解式の要素だから

何とか語呂合わせ（老荘の詩集は平均です）

悪くても 24 点は欲しい

	悪い場合	良い場合
1 問	6	10
2 問	11	15
3 問	12	16
4 問	11	15
5 問	24	28
合計	64	84

25 回は合格率 26.6%と直近 2 回と同程度です。今後は分析に関しては 2 問～5 問の 80 点で 70 点取るつもりでの学習が必要です。

弥生カレッジCMC

建設経理士1級「財務分析」過去問 第3、5問 頻出語

科目/開催回	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
総資本経常利益率		○		○	○				○	○	○	○			○
現金預金手持月数		○				○	○	○	○			○			○
負債比率	○		○					○	○	○		○			○
総資本回転率			○				○				○		○	○	○
流動比率		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金利負担能力	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
有利子負債月商倍率	○		○			○		○			○	○			○
固定長期適合比率			○	○		○		○			○	○		○	○
立替工事高比率	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○
自己資本事業利益率							○								○
当座比率	○			○	○	○	○	○	○		○		○		○
付加価値率	○		○	○		○								○	○
経営資本回転率						○	○	○					○	○	○
運転資本保有月数	○		○		○				○	○		○	○		○
完成工事高増減率		○											○	○	○
借入金依存度	○		○	○	○		○	○	○				○	○	○
完成工事高キャッシュフロー率	○	○	○	○	○					○	○	○			○
支払勘定回転率	○		○			○	○			○			○		○
純支払利息比率	○	○	○			○			○			○	○	○	○
総資本当期純利益率			○												○
棚卸資産滞留月数			○	○			○			○	◎		○	○	
固定比率		○	○	○	○		○		○	○			○	○	
流動負債比率			○		○				○	○				○	
受取勘定回転率		○	○											○	
完成工事高営業外損益率														○	
経営資本営業利益率		○	○	◎	○	○	◎	○	◎	○	○			○	
未成工事収支比率				○	○							○		○	
負債回転期間														○	
自己資本比率	○			○		○					○	○		○	
労働装備率														○	
営業キャッシュフロー対負債比率															○
配当性向							○						○	○	
経営資本営業利益率	○												○	○	
自己資本比率													○	○	
受取勘定滞留月数	○		○				○	○		○			○	○	
未成工事収支比率						○	○	○					○	○	
自己資本経常利益率								○		○	○		○	○	
棚卸資産回転期間					○							○	○	○	
営業キャッシュ・フロー対流動負債比率		○	○			○			○				○	○	
完成工事高営業利益率	○	○										○			
固定負債比率		○										○			
自己資本当期純利益率		○				○	○	○		○		○			
資本集約度		○				○	○		○			○			
棚卸資産回転率		○				○						○			
総職員数	○	○										○			
総資本事業利益率	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			
労働装備率	○		○	○					○			○			
完成工事原価率				○							○				
必要運転資金月商倍率	○	○				○		○		○	○				
支払勘定回転期間(月)											○				
完成工事高総利益率					○			○		○					
自己資本回転率	○							○		○					
損益分岐点比率										○					
配当性向										○					
受取勘定回転期間(日)										○					
棚卸資産回転期間(日)									○						
完成工事高キャッシュ・フロー比率								○							
受取勘定回転期間								○							
経営資本回転期間						○									
完成工事未収入金滞留月数						○									
支払勘定回転期間					○										
設備投資効率					○										
完成工事高経常利益率			○	○											
正味受取勘定回転率				○											
労働生産性		○													
固定資産回転率	○														

◎は3問と5問両方で登場したものです。

建設業経理士 出題論点

	1 (通常20点) 記述	2 (15点) 理論選択	3 (15点)	4 (20点) 計算	5問 (30点)
1	収益性分析の総括的比率 その比率高める方策	語句選択 (損益分岐点分析)	分析 (小問)	付加価値率 労働装備率	諸比率算定と空欄記入
2	建設業のBS構造の特徴と、財務 分析上考慮すべき点	語句選択 (流動性・資金管理)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入
3	資金変動制分析の必要性	語句選択 (各種分析手法)	分析 (小問)	付加価値率 設備投資効率	諸比率算定と空欄記入
4	流動性分析の意義と建設業での 配慮すべき点	語句選択 (収益性分析)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入
5	資本構造の健全性と中核比率 資本構造と経常的な利益との関 係	語句選択 (損益分岐点分析)	分析 (小問)	付加価値 資本集約度 労働生産性	諸比率算定と空欄記入
6	回転率と回転期間の意義 回転期間の方が有用な理由	語句選択 (総合評価)	分析 (小問)	営業利益・経常利益 段階でのCVP	諸比率算定と空欄記入
7	BS構成比率分析の意義・方法	語句選択 (総資本利益率と金利負担 能力)	分析 (小問)	付加価値 設備投資効率 労働生産性	諸比率算定と空欄記入
8	企業会計システム (財務・管理会 計) と財務分析の関係	語句選択 (資金運用表)	分析 (小問)	資本集約度 設備投資効率 労働生産性	諸比率算定と空欄記入
9	CF計算書が重要な理由 CF分析における流動性分析	語句 (成長性分析)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入

10	P L 分析の実数分析(増減分析)	語句 (健全性分析)	分析 (小問)	付加価値率 設備投資効率 労働生産性	諸比率算定と空欄記入
11	限界利益 建設業の損益分岐点分析	語句 (活動性分析)	分析 (小問)	労働装備率 設備投資効率 労働生産性	諸比率算定と空欄記入
12	定額請負契約の利益率への影響 資金立替状況の指標の意義	語句 (資本構造分析)	分析 (小問)	営業利益・経常利益 段階でのCVP	諸比率算定と空欄記入
13	付加価値の意義と計算方法 付加価値を分子とする生産性指標	語句 (安全性分析)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入
14	健全性分析の意義 固定資産と調達資本の比率	語句 (直接原価計算とCVP)	分析 (小問)	労働生産性 労働装備率 資本集約度	諸比率算定と空欄記入
15	C F 分析の意義 C F 計算書の実数分析	語句(生産性分析)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入
16	総合評価の指標 2 つ	語句 (活動性分析)	分析 (小問)	付加価値率 労働装備率 設備投資効率 BEP	諸比率算定と空欄記入
17	自己資本利益率 それを高める手法	語句 (建設業の財務構造の特徴)	分析 (小問)	C V P 分析	諸比率算定と空欄記入
18	外部分析の主体 3 つの目的 内部分析の主体 3 つの目的	各指標の分類選択 (成長性・健全性等)	分析 (小問)	C V P 分析 付加価値率	諸比率算定と空欄記入

19	固定費変動費の意義と分解方法 建設業における損益分岐点	語句（安全性）	分析（小問）	付加価値率 労働生産性 総資本回転率 営業利益増減率	諸比率算定と空欄記入
20	成長性分析の意義 成長率と増減率	語句（CF計算書）	分析（小問）	CVP分析	諸比率算定と空欄記入
21	CF分析の意義 CF計算書構成比率分析	語句（流動性分析）	分析（小問）	CVP分析	諸比率算定と空欄記入
22	CVP分析とは 建設業における固定費と変動費 の区分とBEPの求め方	語句（活動性分析）	分析（小問）	付加価値率 労働生産性 労働装備率 資本集約度	諸比率算定と空欄記入
23	総合評価の必要性（内部分析と 外部分析の観点から） レーダーチャート法	語句（生産性）	分析（小問）	CVP分析 金利負担能力 分子に実際工事高の安全余裕率	諸比率算定と空欄記入
24	建設業の資産・負債及び資本の 特徴 建設業の収益費用構成の特徴	語句（収益性）	分析（小問）	CVP分析 資本回収点分析	諸比率算定と空欄記入
25	経営事項審査における利益とは 経営状況の具体的指標3つ	語句（CVP分析）	分析（小問）	付加価値率 設備投資効率 労働生産性 総資本回転率	諸比率算定と空欄記入
26	建設業特有の流動性分析の意義 流動性健全性に加えて資金変動 制分析が必要な理由	語句（活動性）	分析（小問）	CVP分析 分子に安瀬余裕額の安全余裕率	諸比率算定と空欄記入

27 予 想	負債比率と財務レバレッジ CCC	語句選択（流動性・資金管理）	付加価値率 労働生産性 労働装備率 資本集約度
	付加価値労働生産性の分解 建設業分析における地域別分析 と規模別分析の必要性の根拠	語句選択（総合評価）	CVP分析 金利負担能力 分子に実際工事高の安全余裕率